

26PB-pm292

薬剤師の喫煙状況 (1)

○田中 三栄子¹, 小本 健博², 設楽 拓哉², 小松 健一³, 川嶋 恵子¹(¹北海道科学大学,
²ココカラファインヘルスケア, ³北海道薬大)

【目的】2003年に施行された健康日本21や健康増進法に基づき、同年に日本薬剤師会は『禁煙運動宣言』をした。宣言項目の中に「薬剤師の禁煙を徹底します」とある。そこで、薬剤師の禁煙が徹底されているのかをアンケート調査を行なって検証した。

【方法】調査は、東京都内調剤薬局7件の薬剤師31名を対象にタバコ意識調査を実施した。調査方法は留置き調査法・無記名式、調査期間は2016年5月1日～5月31日であった。調査内容は、基本属性(性別、年齢、実務経験年数)、喫煙状況(喫煙・禁煙歴、喫煙場所、禁煙チャレンジ)、受動喫煙防止法の成立についてである。データ解析は、エスミMac統計解析V2を用いて解析を行なった。

【結果】薬剤師31名のうち、記入漏れのある無効回答を除き得られた有効回答数は25名(81%)であった。基本属性は、男性48%、女性52%、20代32%、30代56%、40代12%、実務経験1年未満12%、2年未満8%、4年未満8%、5年以上28%、10年以上48%であった。喫煙状況は、喫煙者13%、元喫煙者4%であった。飲食店や屋内施設での禁煙を、罰則付きで義務付ける条例の受動喫煙防止法の成立については、80%が賛成であった。

【考察】近年、喫煙と健康に関する意識の高まる中、喫煙率は低下傾向であり、2016年の日本の喫煙率は19.3%(JT全国喫煙者率調査)であった。これに比べると、薬剤師の喫煙率17.5%は低いと言えるが、喫煙薬剤師が存在しているのが現状である。日本は欧米諸国の先進国に比べて喫煙率が高く、規制も非常に遅れている。『薬剤師の喫煙率ゼロ』と『脱タバコ社会の実現』に向けて、薬剤師が禁煙啓発のリーダーになり、国民の禁煙支援に積極的に取り組むことを期待する。